

技術士だより

(社) 日本技術士会九州支部・九州技術士センター秋季号〈第41号〉 (平成11年9月15日発行)

巻頭言

未知の分野への挑戦 — 異業種分野との共同研究 —

九州支部副支部長 帆足 建八 (防災工業㈱社長)

最近の河川では、めっきり魚影が少なくなったのを、40代を越えている方々は実感していることと思う。確かに淡水魚は生息環境の悪化により減少しているのである。農薬の使用、家庭からの下水、工業用水の流入等による水質汚濁、河川改修等による魚類の避難場所であった淵の消失、農業構造改善事業等による用排水路の改修による仔魚の生育場所の減少、良好な産卵場所の減少、回遊魚にとって遡上を妨げる堰の築造等々……原因の大半は人間の生活活動に伴い生じたものである。我々は、次の世代に、祖先から引継いだ昭和20年代の自然豊かな環境の河川に戻して、後世に引き継ぐべきであろう。近年は、確かに、河川は洪水に対して安全性は高まり、農業、都市用水の確保等の利便性も向上したことも事実である。しかしながらその陰には絶滅に瀕した淡水魚もいることを忘れてはならない。こうした考えで日常生活を送っている昨今、仕事の関係で、新潟県燕市にあるM金属㈱の工場見学に行った時のことである。養殖用の金網に強度増加を図るため、チタン合金を使用したところ、異常に海藻が生え、使い物にならなかつたと言う話が出て来た。かねてより河川の魚類に大きな関心を持っていた私にとっては興味深い話であった。環境にやさしいコンクリート・ブロック作りと云う観点から、川で使用するコンクリートに、貝、甲殻類、昆虫、魚類の餌となる付着藻類を生やしたいと考えていた私には、金属に海藻が生えると云うことは、コンクリートにも十分可能性があると思われた。それからは寝ても醒めても、このことが脳裏から離れないでいた。コンクリートの材料、藻類、水生昆虫、鉦滓等の関係する専門書を乱読し、更に水産学者、コンクリートの材料に詳しい大学教授に教えを請い、その可能性を探った。何しろ異分野で専門知識に乏しい私は次々に難しい問題に遭遇し、この問題への挑戦を諦めようかと思った時、当技術士会の大分市在住の箴島氏から耳寄りな話が持ち込まれた。SコンサルタントI氏が、これに関連があるかもしれない事を研究しているとの話である。

早速、大分市に行き、箴島氏にI氏を紹介して頂き、私の話を持ち掛けたところ、冶金が御専門であるI氏はコンクリートの材料についても造詣が深く、共同研究に心よく同意して頂いた。かくして、根固ブロックの型枠のリース会社である防災工業㈱、鉦物・分析等を得意とするSコンサルタント、ステンレス鋼を製造するM金属㈱ この三者の奇妙な組合せの共同研究体制が発足した。まず、付着藻類が生え易いコンクリートの材料の材質についてはSコンサルタントが、新に開発したコンクリートの施工方法等については防災工業㈱が、海域での利用方法とその可能性についてはM金属㈱がそれぞれ調査研究することとなったのである。

未知なる分野に挑戦するには、異業種の方々の知識と、異なる業界のニーズと各々が有する得意分野の技術が必要であると、今度ほど痛感したことはない。

当技術士会は、正に異業種の強力かつ、広範囲な分野の技術者の集団である。

ベンチャー企業の創立の前に、ベンチャー研究体制の構築がまず望まれる。

従来から技術士の社会的地位の向上が云われているが、我々技術士一人ひとりが、技術士にふさわしい課題に取り組み、日々研鑽を重ねることがまずは必要ではなかろうか。

1人でも多くの方の入会をお勧め下さい

私の提言

地域社会に開かれた広い視野に基づく技術士研修への参画を

九州技術士センター 研修委員長 内山 順治（林業・森林土木）

九州支部は会員諸先生のご尽力により、活発な活動と組織化が展開され、心強いものを覚えますが、地域における技術士の認知と活用は極めて薄く、そのため、地元が被る環境負荷と経済損失は、取り返しのつかない莫大なものになっているのが現状ではないかと考えます。

今年、私の住む近くの農業水路を市が埋め立てました。設計は地元の測量設計業者が受託して行い、工事は落札業者が行いました。埋め立てた水路は、絶滅危惧種ⅠA類ヒシモドキの自生地です。全国に3箇所しかない場所の一つで全国にも知られています。地元の識者の抗議で水路の一部は通水が復活し、淀み腐敗していた水は無くなり、狭くはなりましたが、ヒシモドキの絶滅は避けられそうです。担当の課長は大事な植物とは知らなかったと陳謝したが、種の多様性の保全に関する法律が定められ、レッドデータブックにも保全するよう明示されているものを知らなかったでは済まされずまい。守られるべき植生が被害を受け、手直し工事の費用も嵩んだ事だが、要は計画設計に技術士の関与がなされていたら、起こらなかった環境負荷と税金の追加支出ではないでしょうか？

また近くの水路では県の土木事務所が、絶滅危惧種Ⅱ種デンジソウを工事で排除しました。地元には環境対策に詳しい技術士が多くいるのに、全く活用されず、環境事情を知らない人の手で公共工事が進められた現実には、我々も反省と対応が必要ではないでしょうか？

このような事例は、各地の海岸の自然の改変、道路計画、都市計画、河川工事、干拓、ダム、発電施設、製造工場施設、農地農用施設整備で繰り返されてはなりませんまい。

ご承知のように、種の多様性保全、地球温暖化対策、大気、水質、土壤汚染対策、核対策、ダイオキ

シン、環境ホルモン対策は人類の存亡にかかわる緊急課題として世界が取り組んでいる対策です。利便性と効率性、経済活性化を高める施設を整備運用するとき、これに用いられて来た技術基準とマニュアルは環境と種の多様性保全の面で見直しと再構築を迫られています。世界に遅れること20年、環境影響評価法が成立し、河川法も改正され法目的が従来の治水、利水の2つに環境保全が加えられ3つになりました。だが適用されるべき技術基準は、環境が地域により異なることから対応も地域により異なり、各省庁、自治体、住民団体等が懸命に取り組んでおられる処です。更に同じ流域でも水流と周辺環境を所管する省庁が異なり、山の頂上から海にいたる水の恵みで生きている住民にとっても、各人がどう対処すれば良いのか判断が困難になっているように見えます。

不況で国内もアジアも停滞している今こそ、熟達した技術士が、地域の人々と一緒に将来のビジョンを描き、実現に向けてのプロセスと具体的技術手段と体制を考え提示すべきときではないかと思えます。

勿論、活動展開の前提である、所管機関との折衝、情報公開の促進、広範な分野の技術協力、企業利益との対立解消等、行く手は大変に険しいのですが、九州支部、九州技術士センターの諸先生のご指導を仰ぎながら、当面次の方針で技術研修の企画に取り組みたいと考えています。先生方の研修へのご参画とご指導を支部までお寄せください。

1. 環境と生命・種の多様性保存の面からの現行技術の見通しを地域の抱える課題について事例研究的に行う。まとめた意見は所管機関に提示する。
2. 研修会には、努めて地域の学識経験者、関係所管機関担当者の参加を呼びかける。
3. 地元が開かれた研修会とし参加者から参加料をとり、講師会場費等に当てる。

平成11年度第2回支部長会議

支部長 川崎 迪一

日 時：平成11年7月14日(水)

場 所：(株)日本技術士会 会議室

出席者：本部 梅田会長，吉武副会長，堀内専務理事，樋口常務理事

支部 青木（北海道），吉川（東北），津田，
小熊（北陸代理），前田（中部），加藤（近畿），森（中国四国），川崎（九州）各支部長

議 事

1. 支部の役割

(株)日本技術士会が行なうべき業務のうち地域（支部）に係わる業務を地域に密着して遂行することにある。地域の行政や産業界に密着してよりきめ細かく実施するには、行政単位としての県が対象となるので、県単位の「技術士会」の役割とするのがより効果的であろう。

具体的に役割を列挙すると

- ①技術士制度の普及啓発，社会的地位の向上
- ②科学技術の振興と地域社会への貢献
- ③関係行政機関，団体等との連絡調整交流
- ④技術士の資質の維持，研鑽，向上
- ⑤会員の交流，親睦
- ⑥会員の増強
- ⑦支部会員の意見吸い上げと取り纏め

2. 支部の活動

2-1. 本部事務の分担代行

技術士試験の会場設営と試験の執行管理等の事務があるが，以下，省略する

2-2. 支部の主要事業

- ①会員名簿の管理と発行
- ②広報活動（機関紙，インターネット等）
- ③研修会，セミナー等（含地区，部会）
- ④交流会（忘年会，合格祝賀会等）
- ⑤業務の開発，斡旋，求人情報等の管理
- ⑥全国大会，合同セミナー，業績発表会等，本部の要請によるもの

2-3. 今後の対応

支部の活動の内容については各支部の特性や従来からの経緯等によって若干の相違点がある。他支部の活動状況をも参考にして，各支部の活動の合理化，

活性化を図るために，各支部の規約，組織ならびに毎年の総会での事業報告，収支決算報告等を相互に交換する。センター，協会等支部と共同で運営されているものを含めることにする。

3. 本部への提案，要望

- ①会旗（携帯用）を製作しては…
 - ②「技術士制度」の改革の方向，現状は
近いうちに「技術士審議会」に当会より，現状と問題点等について説明することになっている。
 - ③支部の会計処理の統一基準の作成
現在，本部において作業中である。
 - ④支部の財務基盤の強化
事務局を他団体と共同で運営する等の対応も考えられる。支部主催の研修会等への補助制度あり（九州，40万円／年）各支部で要努力。
 - ⑤「技術士制度」の改革に関する中間的な情報を早急に随時支部へ提供されたい。
 - ⑥本部理事選挙の仕組みが複雑で判りづらいので，PRの徹底が必要である。また思いきって，支部および部会を単位とする小選挙区制（定員1人）と全国区制を併用するのが単純明快で判りやすいか。
今の制度は良くできており判り難いことはないはずだ（本部）
 - ⑦各支部主催の研修会の承認
本部において継続教育としての認定のガイドラインを設定する方向で検討中である。
- #### 4. その他
- ①役員会，委員会，W/G（ワーキンググループ）等における旅費日当の支給状況
各支部の財務状況によって，一切支給していないか，交通実費として1,000円～3,000円支給と，支部によって差がある。支部活動の活性化のためには日当の支給が望ましい。本部では，役員会・常設委員会等について交通実費のみ支給しているが，調査委員会には支給していない。
 - ②本年度の「地域産学官共同セミナー」は近畿，北陸，中部。
 - ③本年度の支部長会議は，北陸，中部。

平成11年度 中・四国支部，九州支部 合同研修会に参加して

九州技術士センター 副会長 笠木 直行（福岡・建設）

今年の研修会は，中・四国支部が担当して7月2日～3日に今治，松山で開催されました。今回の見学場所は，三浦美術館，三浦工業㈱「小型ボイラー研究と製造」，日本食研㈱「バイオ・調味料・ハム・ソーセージの研究と製造」，西瀬戸内自動車道です。

松山へは福岡から空路1時間弱。初日はツユの最中ではあったが天候はまあまあで，九州からの参加者5名(後で現地で1名合流)は松山空港で出迎えを受け，中・四国支部の会員と合流して三浦美術館および三浦工業㈱へ。美術館は三浦オーナーのコレクションを展示したもので，油絵，版画，唐三彩，古代オリエント陶器など600点が所蔵されております。

三浦工業㈱は，商業用小型ボイラーから船舶ボイラーまで手がけており，年間7,000～8,000台を出荷しているとのことでした。この企業の特長は，保守サービスが重要な商品と考え，ボイラー業界では世界初のオンライン化による24時間保守を行なっていることです。

2日目は，夜半からの雨が降るなか今治の日本食研㈱を見学しました。この会社は，昭和46年に社員6名でスタートした会社ですが，現在は社員2,700名，年商500億円，平均年令27才の若くて活力あふれる会社です。ハム・ソーセージから調味料など，

8,000以上の商品を製造販売しております。さすがに食品会社だけあって，社員食堂は街のレストラン並の雰囲気でした。

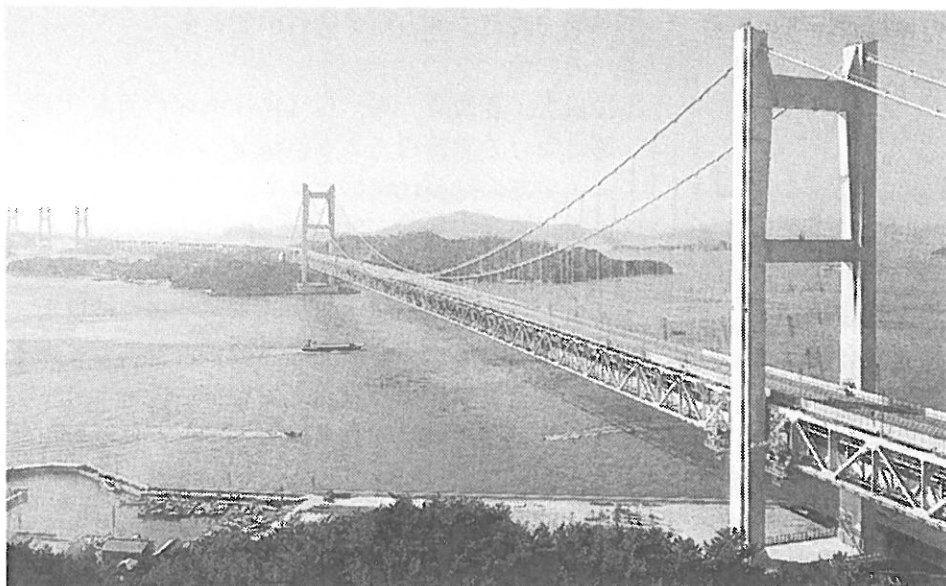
“ばんばんばんばん晚餐館，焼肉焼いても家焼くな”のテレビコマーシャルはこの会社でした。

西瀬戸内自動車道は通称瀬戸内しまなみ海道といい，島々を飛石のように9つの橋で渡る自動車道です。2年前にもこの研修会で見学しましたが，世界一の斜張橋多々羅大橋は中央部分の結合直前の工事中で渡ることができませんでした。

今年5月1日に開通しましたが，陸上部分の道路はまだ未完成のところもあって，部分的に一般道を経由しながら今治ICから西瀬戸尾道ICまでの約60kmの海道を渡ることができます。

本州と四国を結ぶルートは3本ありますが，このしまなみ海道の特長は，島々を結ぶ橋は自動車はもちろん，自転車でも，歩いてでも渡ることができることです。健脚を試したい方は一度挑戦してみてもいかがですか。気になる料金ですが，西瀬戸尾道ICから今治IC間で普通車が5,250円（中抜供用時の料金），自転車は橋梁通行料が50円から200円です。

研修バスは今治から尾道までを1時間余りで快適に飛ばし，福山駅にて無事解散しました。



西瀬戸内自動車道
“しまなみハイウェイ”

熊本県技術士会セミナー

地球温暖化に伴う海面上昇と有明海・八代海 沿岸の多目的潮受堤の構想にあたって

熊本地区代表幹事 林 博昭（農業）

日 時 平成11年4月16日 18:00～

場 所 熊本テルサ

参加者 65人

有明海・八代海は、その背景に佐賀市、八代市をはじめとする都市地域、それに肥沃な干拓農業地域を育み、干潟とそれに連なる浅海域は、貴重な漁場となっており、これらの生産資源と相まる環境資源は、私どもに自然の安らぎと潤いを与えてくれます。

この有明海・八代海を、環境と調和していかに活用していくか、九州圏域の経済的発展を図る上で重要なかぎになるわけですが、一方では、このような有明海・八代海を、人と自然と古くからの交流の良いサンプルと位置付けして、エコ・ミュージアム（自然の博物館）として残そうとする動きもあります。

フォーラム・「有明の海と人」での小野勇一氏（日本学術会議会員・九州沖縄地区代表幹事）は、エコ・ミュージアム構想について次のように述べています。

「原始の地球では浅海の干潟は生命誕生の舞台であったし、またその後後生生物たち（原生動物を除いた全ての動物をひっくるめてこう呼ぶ）の海から陸へ

の進出の舞台でもあった。“生きている泥”にすむ有明海の動物たちのなかにもその進化の姿をとどめているものを見ることができる。また、そのことはひるがえって、“泥が生きている”からこそ彼らも現代に至るまで生命をとどめ続けておられるともいえよう。」

この“泥が生きている”ということは、私ども土木に携わる技術者にとっては、第一潮受堤の沈下を進め老朽化を促し、将来予想される地球温暖化に伴う海面上昇や地震・液状化現象など、人間生活の基盤を脅かすものにしかうつつて来ない。つまり、国土の管理へ視点がいつてしまうのであります。

そこで、私どもが取り組む構想（平成10年12月15日セミナーで説明）は「環境と調和した持続的な開発は、これらの人間社会にとって必要不可欠である」との認識にたち、人々が寄り付きにくい直立した潮受堤を、人々が近寄り水辺で遊べるような優しいきれいな潮受堤に築堤し直して、人々が海と親しみ、海的环境と馴染、そして、その変化を観ることによって海を汚さない事を知るといった、いわゆる自然と共生を図るための学習の場として利用することを念頭において研究を進めたいと考えています。

部会報告

第三部会研修会

講演と卓話

第三部会長 本田 整（北九州・金属）

7月3日に第三部会の研修会を行なった。研修内容は、高井先生（化学）から『松枯れ病』に関する講演、宮田先生（金属）から『海外技術指導』に関する卓話をして頂いた。

高井先生の講演は、『松枯れは防止できるかーマ

ツ材線虫病の防除技術ー』というものであり、一般に良く知られている松枯れが、松食虫であるカミキリ虫が原因で生じると考えていた私の常識を覆すものであった。

先生の話では、松枯れがマツ材線虫が原因であることは、20年程前に発見されたとのことである。線虫は松の樹の中で増殖して水分の導通を低下させて遂に枯らしてしまう。

正式名マツノマダラカミキリは、一匹の体内と体表に数千から数万の線虫を保持しており、5月から7月にかけて羽化して松の若枝を食べるが、その際

に線虫が松の中に侵入する。このため、カミキリは、この線虫を松に伝染させる媒体の役目を果たしている。また、マツ材線虫は、遺伝的にアメリカとユーラシアを原点とするものの二種類があり、日本の松枯れはアメリカ産のものによる由で、その被害は、わが国だけでなく韓国、台湾および中国等の比較的温暖な地方に拡大している由である。

この線虫はヨーロッパにも伝染する可能性があり、このため松材の輸入は禁止しているとのことであり、このような面にまで影響を及ぼしているかという感慨を覚えた。

松枯れ防止の方法としては、枯れた松の伐倒、剥皮、焼却等の物理的処理、殺虫剤の散布、抗線虫剤の樹幹注入、線虫抵抗制のある松の植栽等の方法がある。

先生の最近の研究には、樹幹注入剤の開発があり、エマメクチン安息香酸塩液剤を開発されてショットワンという商品名で販売及び施行もされている。因に、直径30cmの松では900mlの薬液の注入で二年間有効であり、薬代は約3万円とのことである。公園や寺や神社あるいは薬剤散布の困難な街路樹の松枯防止に極めて有効とのことである。

宮田先生の卓話は、種々の海外での技術指導の経験から、技術指導の受注のケース、コンサルタントとしての心構え、契約した場合の指導内容の品質、具体的な方法の例という4項目にわたって、詳細で唆暖に富む話をして頂いた。私の受けた感想を記す

と知りえた他社や所属社・団体の技術・ノウハウの秘密の厳守という点は技術士の基本であるが、先生から話されると改めて再認識させられた。

次に、信用、誠実、熱意、勉強、工夫という点で、1日の終業後データをまとめて翌日提出するというスピーディな対応や、国レベルでの相手の立場、視線、位置を考慮して調査を行なうという配慮の仕方は、国内での仕事よりも遥かにしんどいという感想を覚えた。

また、現場関係者に話したことはトップにも英文で報告するということが、相手の中でのコミュニケーションをよくし、教育の徹底を図る上から重要であり、そのような報告書を1日3枚以上出すようにすると仕事を終える時には厚い資料が出来るので、仕事の実体としても相手に喜んで貰えるということと話されたがなるほどと感じた。

海外の仕事を斡旋して貰える機関としては色々あるが、現地での安全面も含めて対応がよいのはJETROであり、また海外で仕事をする時は大使館に連絡しておく必要があることを話されたが、そのような配慮も必要なのかと感じた。

先生はQCの関係から海外活動を始められた由であるが、この分野は全ての企業に共通しているので最も賢明な方法であったのではないかと思った。

先生の卓話の後に江崎先生からも御経験を話して頂いたが、海外で仕事をするにはIEを勉強しておく必要があることを強調された。

ほのぼのトピックス

技術士とオーケストラ

「あなたは北九州交響楽団設立当初より卓越した指導力と包容力をもって団の育成に努められ発展に多大の貢献をされました 特に練習や演奏会のあとは一身を顧みず常に率先して団員の融和に力を尽くされ団の強化充実のためにはなくてはならない存在として活躍されました

この功績はまことに顕著で団員の規範とするところであります また地域の音楽事情にも詳しくその資料の保存や楽譜の収集は余人の能わざる貴重なもので関係者垂涎の的でありその行く末が案じられるところであります

かくのごとくあなたの業績は当楽団のみならず地域

の音楽文化の向上に寄与するところが大であると認め北九州交響楽団40周年を機にあなたの功労を顕彰するため記念品を贈り感謝の意を表します

平成11年1月16日 北九州交響楽団団長

これは、同楽団名誉団長、チェロ奏者、児玉 久氏に贈られた感謝状である。児玉氏とは誰であろう。応用理学部門の現役「技術士」元九州支部北九州地区代表幹事、大元老である。80才を越えて矍鑠、いまでも地区会合はもとより、支部・センターの研修会にも参加いただいている。懇親会の締めめのタクトを振られたことも、記憶に新しい。

ユニークな方として際立った存在でおられることは間違いなが、この感謝状に盛られた一言一言のなかに、「技術士」として求められる真髓が浮き出していると思う。「技術士」と「オーケストラ」は無縁ではなかった。 (I & K)

I 「技術士だより」41号に寄せて

— 技術士だよりと登録即入会について —

支部顧問 水上 信照（福岡・建設）

技術士だよりも、41号になった。発刊後10年を経て、支部、センターの広報誌として大きく貢献している。まさに「継続は力なり」である。

平成元年8月、土居前支部長、私は総務委員長時代の創刊である。昭和63年10月、支部最大のイベント、第15回技術士全国大会を無事終了し、その反省会の席上、土居支部長の提案で、支部、センターの広報誌として、特にセンター会員への情報伝達、会員の提言発表、会員増強の強力な武器として発刊されたものである。

創刊号は当初4頁で、土居支部長の巻頭言、支部25周年行事の案内記事、新役員の紹介等で、発行部数も約500部であった。季刊の6、9、12、3月のサイクルで、定着したのは第8号からで、会員の協力により、投稿も大体16頁を満たす事が出来、編集者の苦労は大変だった事が思い出される。重富、田中、完戸、小松、棚町各技術士の献身的な御苦勞に、心から敬意を表したいと思う。

平成10年度には、広報委員会（完戸委員長）が新設され、広報活動も、「技術士だより」の外に、インターネットのホームページを新設し、会員へのサービスに努められている。

現執行部役員の御尽力により、会員数も約1,200名に達し、賛助会員も、130社、150口と飛躍的に増え、支部、センターの財政基盤の強化が実現している。発行部数も1,600部と仄聞しているが、関係役員の御努力に対し、深く感謝申し上げたい。

登録即入会について

(株)日本技術士会40年史に、土居貞夫元支部長は、技術士会への要望として、本件を提案されている。私も「技術士だより」第9号（平成3年9月）と、第22号（平成6年12月）に巻頭言で提言している。

特に22号では、技術士法の法17条（受験の禁止）法32条（登録）法38条（登録の消除）規則22条（登

録状況の報告）の不備について問題提起し、詳細に述べている。

特に現行の登録業務で、最もまずい点は、登録者の死亡による、登録の消除である。現在、技術士会では、実在の登録技術士が把握されていない。登録技術士が死亡した場合、会員は判明出来るが、非会員は報告がなされないままである。技術士の業務拡大のため、関係機関に陳情する場合、技術士の実態が把握されていないと、名簿すら提出出来ない状況である。

そのためには、登録時に技術士会に入会を義務付けることにより、会員は技術士会に会費を納入し、死亡時には、会よりの納入請求に対し遺族は、死亡通知を出すこととなり、会は登録を消除することが出来る。遺族は金銭がともなわないと報告はしないと思う。

身分証明書は、現在会員の申請により、会員に発行しているが、22号に詳細に説明している様に、不正受験、不正登録防止のため、受験時、登録時（更新時を含む）身分証明書発行時をリンクさせ、写真による照合を行うため、入会を義務付けることとする。

もう一つは、登録更新制度の導入である。各種登録に於いても、更新は必須事項で、更新時に講習等を義務付けているものが多い。仄聞するところによると、理事会でも検討中で、更新の必須条件に、会の主催する講習会研修会の或る程度の出席率を考慮する案があるとの事である。技術士は、日々革新する技術を相手にするコンサルタント業である。当然の事で、そのためにも、入会を義務付ける必要がある。

以上、3項目の理由により、法改正について、本部理事会での検討を期待するものである。諸兄の率直な御批判を仰ぎたい。

II

海外勤務で体験した日米の違い

渡部 秀樹（福岡・建設）

米国では技術士に相当する名称を Professional Engineer(PE)、英国では Chartered Engineer(CE) と称し国際的技術者資格として認められている。我が国では経済社会の国際化に伴い今後技術士制度変革の動きがあるが、現在 Consulting Engineer と称している。

ここで驚かされるのは日本の技術士登録者数が約4万人に対して、米国には60万人以上もいることである。我が国の1億2700万人口の約2倍を抱える国であることを考慮してもあまりにもその数においてアンバランスではないかなどと考えている今日この頃である。

私は平成元年から米国領グアムにおいてゴルフ場、別荘、各種スポーツ施設を含むリゾートの建設工事とこれに一時並行して米国ロサンゼルスにおいてその計画設計などの仕事に従事した。海外生活3年間で経験したことの中で私が感じた日本人と米国人のものの考え方、価値観の違いについて述べてみる。

米国人との会話の中で「自分のことは棚に上げて申し訳ないとは思いますが」という表現を聞いたことがない。まず日本人である私とその遠慮のなさに苦しんだ点である。そう言えば長女の通う幼稚園に授業参観へ行った時のこと、何とデイベートの授業をやっていた。こんなに小さい時から討論の教育を受けているのだから、我が国がそうそう外交交渉を有利に展開できないのも頷ける。

Excuse me. はよく使うのに、I'm sorry. は文書では見たことがなかった。後者は責任を認めるようなもので以外に重大な用語として極力使用しないようにした。それともうひとつ、Please, …の使い方日本の英語教育に疑問を抱いてしまった。彼らはあまり使わないけれども別に失礼でもない。日本ではたぶん「命令形」と教えているからつい使うべきと思ってしまう。「依頼形」とでも改めて教えても良いのではないかと考えたりもする。

話は変わるが彼らの挨拶の仕方には感心させられ

た。初めて会おうが毎日会う人であろうが先ず笑顔で握手と同時にハイ、ハロー。今日は厳しい仕事のやり取りをしなければならぬのについてこの調子でこられて相手はよっぽど機嫌が良いのかと思いきや、いざ打合せに入るとこれが一転して苦々しいやり取りに終始する。テレビニュースで外交交渉の前に入口で笑顔での握手シーンをよく見るけれど、中に入ったら相当険悪なムードでやっていると思うと気の毒な気持ちになる。

米国人の美点は、負けは認めない頑固で弱みも見せず、同情させない代わりに媚びも売らない。そして仕事と私生活をきっちり区別しているところだと言える。今の自分もよく反省したりするのだが、彼らは仕事のために自分の生活が侵されることを最も嫌う。延いてはそれが社会生活において“ゆとり”を生んでいるともとれる。たぶん「私の生き甲斐は仕事です。家庭は二の次です」こんなこと言ったら彼らならぶったまげてしまう。

また米国で「もう歳だから」と言う表現も見当たらないようだ。リタイヤの意味も違う。転職が当たり前の米国では、年齢が就職条件にならないから定年感覚がない。歳不相応に元気一杯の素晴らしい老人たちを身近に何人見たことか。現在日本ではリストラの嵐、それがもたらすプライドの喪失。人間関係や仕事の勝敗に拘り過ぎるあまり自分自身の将来設計までをも見出せず、その結果ますますゆとりをなくし彼らと対照的に見えたりする。

最後に、米国人にとってシビルエンジニアというのは結構尊敬の念に値する職業であると感じたことである。日本のシビルエンジニアということで結婚式やパーティーにも顔として招待されたりして得したようなそんな思い出の残る海外勤務であった。

これまで橋梁、宅造、ゴルフ場、上下水道等建設現場での仕事をしてきました。現在福岡市の地下鉄3号線工事に従事致しております。今後ともご指導ご鞭撻の程お願い致します。 [住友建設(株)]

(社)日本技術士会九州支部・九州技術士センター

平成11年度 第一回合同役員会

日 時：平成11年6月26日(土) 13:00～16:30

場 所：福岡市商工会議所 604号室

出席者：

(九州支部) 支部長, 副支部長, 幹事, 地区代表幹事, 監事, 常設及び特別委員会委員長, 各部会長
(センター) 会長, 副会長, 理事, 幹事, 常設委員会委員長

1. 平成11年度事業計画 (川崎支部長)

「技術士だより」前40号に掲載

2. 常設・特別委員会平成10年度事業計画

(支部委員会)

(1)総務委員会 (田中委員長)

- ①会務及び会員(含賛助会員)の動静把握
- ②会の財務
- ③本部及び支部との情報交換
- ④広報活動の支援: 会員名簿発行, 情報化推進
- ⑤他委員会への協力, 委員会間の連絡調整
- ⑥事務合理化の推進

(2)試験管理委員会 (齊藤健男委員長)

第二次試験: 実施日 8/25・26 会場 九州産大

第一次試験: 実施日 10/10 会場 東和大学

(3)事業委員会 (恒松委員長)

平成11年度中・四国支部, 九州支部合同研修会

日時: 平成11年7月2日(金)～3日(土)

場所: 松山美術館及び三浦工業(株)工場見学
今治市日本食研(株)～来島大橋～西瀬戸内自動車道～福山駅(解散)

第26回技術士全国大会 '99 (岡山市)

日時: 平成11年10月19日(火)～23日(土)

会場: 岡山ロイヤルホテル 他

日韓技術士会議 (第29回)

日時: 平成11年10月28日(木)～31日(日)

場所: 釜山(韓国)

(4)広報委員会 (完戸委員長)

「技術士だより」:

年4回発行, 内容充実, 活性化を図る。

部内対象広報活動:

インターネット活用拡充(ホームページの適正な管理と更新, E-mail活用ほか) F A X活用
部外対象 P R 活動:

ホームページ活用, 主催事業宣伝, 広報資料整備, 「九建日報」への記事提供

委員会拡充:

8地区に広報担当委員をお願いして, リアルタイムな情報連絡の緊密化を図る。

(5)業務開発委員会 (泉館委員長)

- ①工学鑑定業務 ノウハウを蓄積して対応分野を広げる。本部研究会と連携して全国ネットワーク対応を図る。支部内組織づくり。
- ②地方自治体の建設技術監査業務の実務化を期す
- ③通産局, 県工業試験所等公的機関連携緊密化
- ④県ごとの技術士専門分野アンバランスを超えた九州全域を意識した技術士活動企画
- ⑤銀行, 裁判所等の主要機関, 並びに各種コンサルティング団体との連携業務企画
- ⑥海外業務 本部と連携し具体業務発足を期す

(センター委員会)

(6)業務企画委員会 (大里委員長)

会員増強に関する活動
賛助会員に対するサービスの向上

(7)普及啓発委員会 (光岡委員長)

技術士第二次試験講座:

筆記試験対策講座 4/17 6/12 6/19 7/17
口頭試験対策講座 11/20

(8)研修委員会 (内山委員長)

- ①会員研修会及び忘年パーティー
会場: 博多パークホテル 講師: 未定
- ②会員研修会及び試験合格者祝賀会
日時: 平成12年2月26日(土)
会場: 博多パークホテル 講師: 未定

(9)活性化委員会 (齊藤清美委員長)

地域問題を議題とする技術フォーラムの開催
技術抄録の発行

3. 地区平成11年度事業計画

(1)福岡地区 (山口地区代表幹事)

- ①本部，支部，センターの事業，活動の支援
 - ②各種団体との交流に取り組む。
 - ③技術士知名度向上のための各種活動
 - ④見学研修会に参加し技術士会活性化を図る。
 - ⑤会員及び賛助会員の増強
 - ⑥その他
- (2)北九州地区（泉館地区代表幹事）
- ①月一回の例会実施（技術報告，会務連絡）
 - ②地域に根ざした活動の活性化（北九州テクノセンター，九州国際事業協力会，商工会議所等機関活動参加）
 - ③活動の広域化，多様化（九建日報寄稿）
 - ④支部，センター活動との連携
 - ⑤新規事業への積極参加（工学鑑定，自治体建設監査業務への参加）
 - ⑥自身の技術装備強化
 - ⑦会員増強
- (3)佐賀地区（藤永地区代表幹事）
- ①各種団体との交流，共同事業・研究に積極的に取り組む。
 - ②見学会，研修会による活性化を図る。
 - ③定例懇話会（各月奇数月）CE塾（1～3月，5～8月，月2回）を継続開催する。
 - ④技術士試験申込書配布説明会を実施する。
- (4)長崎地区（山口地区代表幹事）
- ①長崎県技術士会総会研修会を開催：7月30日
 - ②技術士関連試験の受験申込み書配付（第一次：11年4月，第二次：12年3月）
 - ③講演会，研修会，セミナーを実施する。
ドイツ共和国環境技術研修視察：6月5～12日
同上視察研修報告会：8月
新年研修会：12年1月
 - ④写真入りの県技術士会会員名簿の発行
- (5)熊本地区（林地区代表幹事）
- ①地域の振興に密着した技術士業務の充実強化と業務地域の拡大に努める。
 - ②会員の親睦を深め会の運営の充実を図る。
 - ③技術士第一次，第二次試験の案内及び説明会
 - ④「土木の日」事業支援活動：11月中旬
- (6)大分地区（箴島地区代表幹事）
- ①地域振興に密着した技術士として，活動の充実強化と業務の拡大を図るため年2回大分合同新聞に広告掲載し，技術士のPRに努める。
 - ②官庁及び民間の技術士活用気運の向上に応え，

- 技術士自己研鑽のため，支部，センターが実施する各部門研修見学会等に積極的に参加する。
 - また，大分県工業団体連合会が実施する講演会研修会に会員多数の参加を呼びかける。
 - ③技術士，技術士補試験の受験案内，説明会を行う（3月上旬，大分市コンパルホール）
 - ④技術士会及びセンター会員増強に努める。
- (7)宮崎地区（新城地区代表幹事）
- ①会員相互の交流，懇親を深める。
 - ②技術士のPR，会員増強への積極的な取り組み
 - ③支部，センターが主催する行事への支援，積極的な参加
 - ④技術士補試験の願書配付
 - ⑤宮崎県技術士会役員会，総会，懇親会，ゴルフコンペ（4月30日）
 - ⑥「土木の日」共催（11月18日）
 - ⑦宮崎県技術士会研修会，忘年会，ゴルフコンペ
 - ⑧技術士試験の願書配付説明会（12月3日）
- (8)鹿児島地区（黒岩地区代表幹事）
- ①技術士会本部と支部及びセンターの事業活動に協力し，本会目的達成を図る。
 - ②会員名簿を作成（1500部）会員及び関係諸機関に配付，PRに努める。
 - ③技術士にふさわしい内容の研修会及び講演会を単独または関係諸団体と合同で開催する。
 - ④会員の研究論文を業界新聞等に発表し，年次毎に，論文集を発行する。
 - ⑤青年部の活性化を図る。青年（55才以下）中心のプロジェクトチーム発足を目的とした懇話会を開催する。
 - ⑥会員相互の親睦を図る（ゴルフ大会 年4回，懇親会 年2回）

4. 部会平成11年度事業計画

- (1)第一部会（機械）（山谷部会長）
- ①技術講演研修会：第一回 9月18日（土）
第二回 12年2月5日（土）
会場は博多第一ホテル
 - ②研修見学会：10月19日（金）
ビール工場（アサヒ）の見学（予定）
- (2)第二部会（建設）（清水部会長）
- ①中国三峡ダム現地研修見学会：
9月27日～10月4日
 - ②九州管内現地見学研修会：11月中旬

福岡市地下鉄工事現場, 大山ダム

(3)第三部会 (金属) (本田部会長)

①研修会 : 年二回, 7月上旬, 10月上旬

②見学会 : 年一回, 11月上旬

(4)第四部会 (水道) (平部会長)

①技術研修見学会 : 8月11日

高度水処理実験プラント (福岡市東部水処理セ

ンター) 及び処理水の農業利用実験 (多々良川
処理場横圃場)

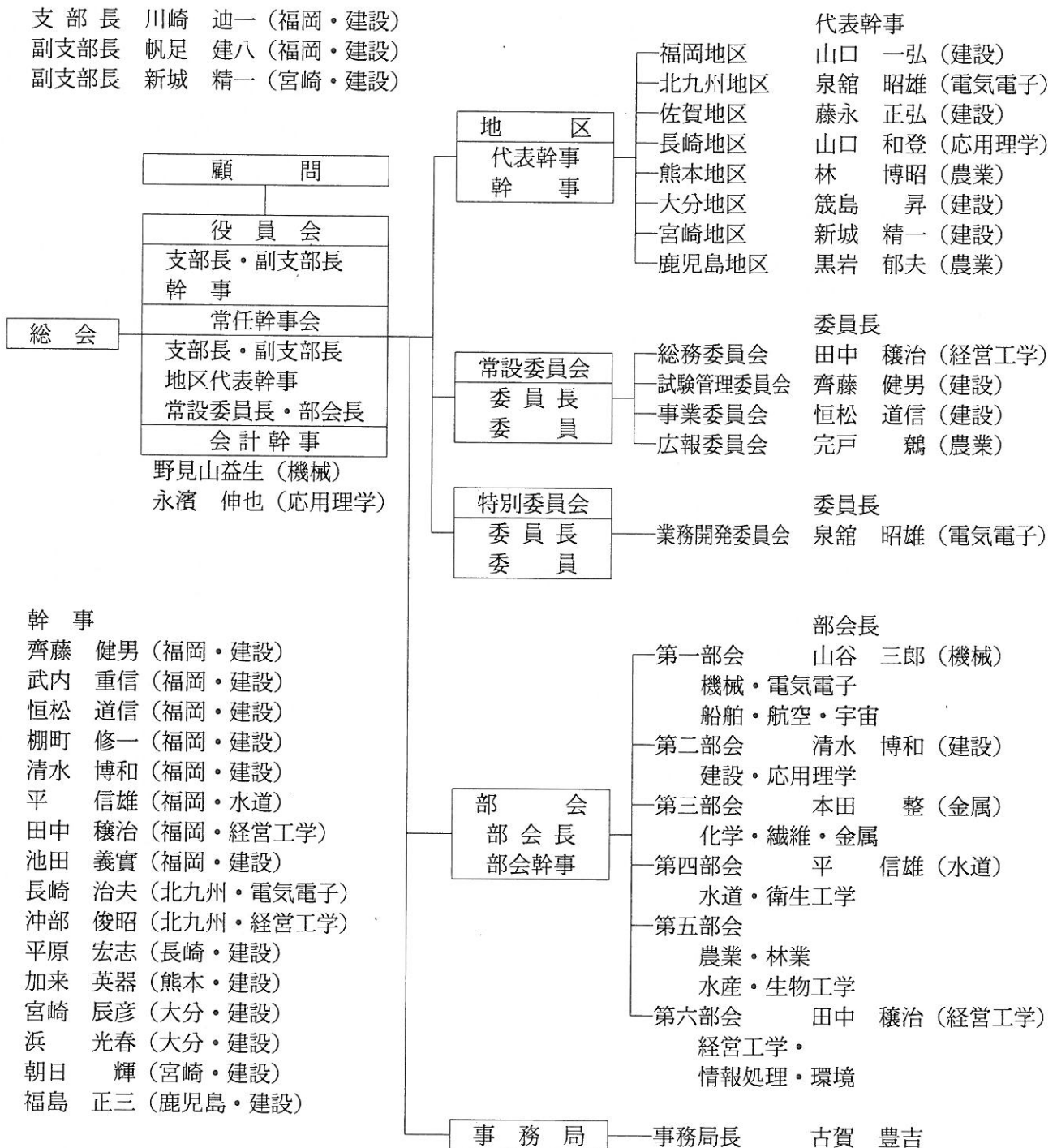
②技術講演会 : 11月

水資源, 水循環に関する演題, 講師選考中

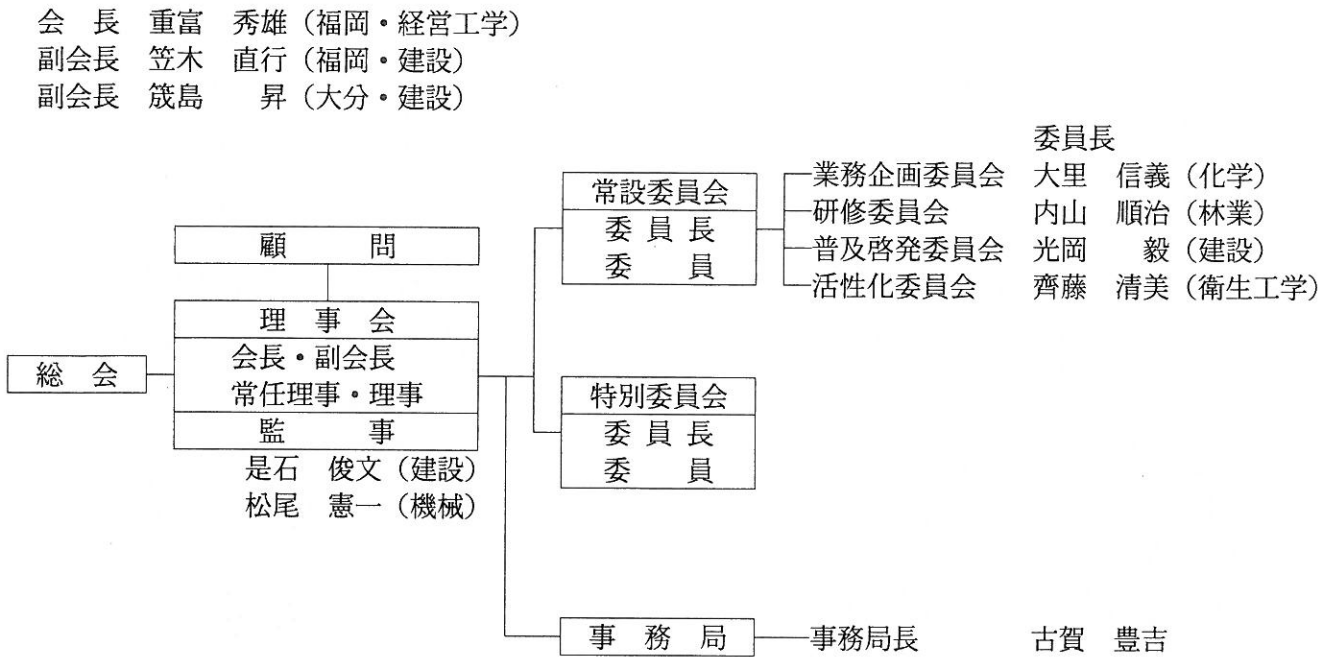
(5)第六部会 (経営工学) (田中部会長)

経営問題研究会 : 毎月一回, 第三土曜日, 支部事
務局で開催

(社)日本技術士会九州支部組織図 (平成11年9月現在)



九州技術士センター組織図 (平成11年9月現在)



理 事

町田 貞徳 (福岡・電気電子)
 吉竹 政致 (福岡・建設)
 杣 辰雄 (福岡・建設)
 光岡 毅 (福岡・建設)
 津城 正 (福岡・建設)
 真鍋 和義 (福岡・水道)
 齊藤 清美 (福岡・衛生工学)
 末松 正典 (北九州・機械)
 安西 敏雄 (北九州・金属)
 垣迫 裕俊 (北九州・建設)
 大里 信義 (北九州・化学)
 内山 順治 (佐賀・林業)

原田 彰 (佐賀・建設)
 成内 律男 (佐賀・応用理学)
 芳賀三千億 (長崎・経営工学)
 大橋 義美 (長崎・建設)
 山本 祐司 (熊本・建設)
 吉田 紘彬 (熊本・応用理学)
 宮野 和幸 (大分・建設)
 室之園泰昭 (大分・建設)
 井川 仁 (宮崎・建設)
 西田 靖 (宮崎・建設)
 稲田 博 (鹿児島・建設)
 新屋敷和明 (鹿児島・建設)

気楽に原稿をお送り下さい

「技術士の声」原稿募集

「技術士だより」から、みなさんの気持ちが溢れて、生きいきした息吹きがほとばしるようにしたいと思います。それでなんでも結構ですから、原稿をお送りください。例えば、

①なぜ技術士になったのか。

②技術士になって判ったこと (よかった点, 不足に思うこと etc.)

③技術士としてこんな仕事をやりとげた。

④いま, 仕事のうえで悩んでいること。

⑤技術士の組織に望むこと。

その他にもいろいろあると思います。気軽にお気持ちを書いてみてください。800~900字程度。送り先は事務局。FAX (092) 432-4442 です。

平成12年の秋、日韓技術士会議が九州で行なわれます。技術士が国際資格として認知されるためには、最初のステップとして、APEC エンジニアの技術レベル合わせが必要です。アジアの工業国として日韓の技術士が一堂に会して、技術問題をディスカスすることは極めて有意義なことです。日韓技術士会議とは、一体どんなものか簡単に述べたいと思います。

§ 1. 日韓技術士会議の経緯

韓国では我国の技術士制度に倣い、昭和40年に韓国技術士会が設立されて、日本と同様に毎年韓国政府が技術士試験を実施しています。

昭和45年韓国技術士会の代表が日本技術士会を訪問して、両国技術士会の友好関係と技術協力について要請がありました。

昭和46年に両国技術士の懇親と情報の交換を目的として覚書が締結されて「日韓技術士会議」を毎年ソウルと東京で交互に行うことになり、第1回がソウルで行われました。第8回までは懇親会と見学会が主でしたが、昭和54年の第9回より研究（又は業績）発表を行いシンポジウムを中心とする意見交換の場となりました。更に、テーマを共通的にすることが合意されて第14回より実施されています。第22回平成4年以降は東京・ソウルばかりでなく地方でも実施することになりました。因に日本では、

第22回	第24回	第26回	第28回	第30回
新潟	⇒ 北海道	⇒ 島根	⇒ 千葉	⇒ 九州
日本：70名	60名		144名	
韓国：11名	30名		39名+夫人23名	

の通りです。

§ 2. 日韓技術士会議の内容

昨年、千葉市で行われた第28回日韓技術士会議は、次の通りです。

(1)式典：日本技術士会、韓国技術士会会長挨拶
友好盾贈呈（韓国技術士会より）

(2)合同講演：

日本：信頼性管理に基づく保全方式の基本理念
韓国：韓国の産業技術市場の現況と21世紀の展望

(3)分科会

- ①第一分科会：テーマ「国際交流」
- ②第二分科会： “ 「新社会資本」

- ③第三分科会： “ 「建設及び安全」
- ④第四分科会： “ 「技術者の資格問題」
- ⑤第五分科会：自由課題「英語発表」

(4)ポスター＝セッション

展示：技術士関連、環境関連、安全、エネルギー、技術一般、その他 等34点

(5)見学研修：東京湾横断道路

今年の日韓技術士会議は10月釜山で行なわれます。

§ 3. 日韓産業構造調査研究委員会

日韓技術士会議の実質的運営は日韓双方にある「日韓産業構造調査委員会」が当たっています。

日本側：委員長 本田尚士（化学） 他14名

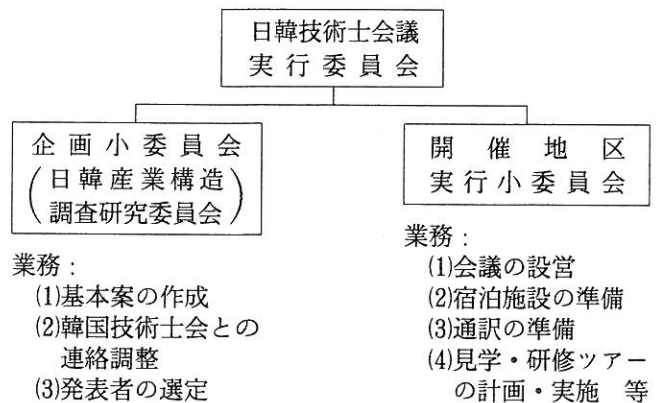
韓国側： “ 李康 鎬（韓国技術士会副会長）

同委員会は開催国で行われる「日韓技術士会議」の具体案を作成します。同委員会は毎月1回、本部で委員会を開きますが韓国側からの同国委員会メンバーの参加もあります。

§ 4. 日韓技術士会議実行委員会

具体的な日韓技術士会議実行委員会の組織は、日本技術士会本部に属する企画小委員会（日韓産業構造調査研究委員会）と開催地区技術士会による実行小委員会より構成されています。従って、当九州支部では臨時に実行小委員会が結成されます。

具体的には両者の関係は次の様になります。



九州は韓国に近いので韓国技術士の多数参加が予想されます。九州支部としては、6月29日の支部役員会の決議に基づき、福岡地区代表幹事山口一弘氏を委員長に実行小委員会を結成しました。いよいよ来年に向かってスタートします。（文責：田中）

今回は技術士に比較的なじみのある労働安全・労働衛生に関する資格について述べたいと思います。

**労働安全コンサルタント・
労働衛生コンサルタント** (労働省)

§ 1. 制度の概要

昭和47年に労働安全衛生法が制定された際に、労働災害防止のために民間の有識者の専門知識を活かそうとして出来た制度です。労働安全や労働衛生は長年工場は工事現場におられた技術士ならば、当り前の事柄です。しかし、筆者も受験の半年前までこの制度があることを知りませんでした。

新人技術士になって合格祝賀会の席上、先輩技術士から「せっかく技術士になったのだから、あと半年我慢して勉強し、安全コンサルの資格も取得したら」と勧められたのが切っ掛けでした。

§ 2. 受験資格

一般の場合、学歴と経験年数が厳しく制限されていますが、技術士については学歴・経験年数は一切お構いなしです。

§ 3. 技術士部門と受験免除科目

* 試験科目：

労働安全コンサル	労働衛生コンサル
① 産業安全一般	①' 労働衛生一般
② 産業安全法令	②' 労働衛生法令
③ 産業安全専門科目	③' 労働衛生専門科目

専門科目は「労働安全コンサル」の場合、機械、化学、電気、土木、建築の内一つ、「労働衛生コンサル」は労働衛生工学、保健衛生の内一つです。

* 技術士部門と受験免除科目：

技術士の部門によっては、③③'の専門科目か、または①の産業安全一般の試験が免除になります。
 機械・船舶・航空宇宙・金属部門……③機械電気電子部門……③電気化学部門・農業部門の農芸化学選択……③化学建設・資源部門・農業の農業土木選択……③土木経営工学部門の工場管理選択……①産業安全一般衛生工学部門……③'労働衛生工学

その他の部門の技術士の方は機械、化学、電気、土木、建築または労働衛生工学、保健衛生の専門科目のどれか一つを受験せねばなりません、問題にはかなり傾向(後述)がありますので、重点

的に勉強すれば左程心配はいりません。

§ 4. 試験日程と試験の方法

* 日程：

- 7月上旬 告示(官報)、願書配布(労働基準局)
- 7月下旬～8月上旬 筆記試験願書受付
- 10月上旬～中旬 筆記試験(東京、大阪、福岡)
- 12月中旬～下旬 筆記試験合格者発表
- 1月中旬～2月中旬 口述試験(東京、大阪)
- 3月中旬 合格発表(官報、労働基準局に掲示)

* 試験の方法：

- ①安全一般と衛生一般：5肢選択，15問
 - ②安全法令と衛生法令：5肢選択，15問
 - ③産業安全と労働衛生の専門科目：記述，3問
- 合格は平均60点以上、一科目でも40点以下失格

§ 5. 受験対策

(社)日本労働安全衛生コンサルタント会が発行の「標準試験問題集」¥3,810が極めて役に立ちます。

①及び②については本書で充分と思われ、なお、同書には他の参考図書も紹介してあります。

③の専門科目は必須2問と選択1問が出題されます。必須問題中1問は計算問題で配点は50点と推定されます。同書に記載の例題を子細に検討すると、概略ながら部門毎の出題傾向が掴めます。例えば、化学ならば爆発と反応暴走、労働衛生工学では局所排気(流体力学)等特徴があります。何が重要か良く検討して、効率的に勉強して下さい。

§ 6. 合格者の数等

現在迄の登録者は、安全2,006名、衛生2,296名、うち日本労働安全衛生コンサルタント会々員は安全874名(九州57名)、衛生1,254名(九州123名)です。

* 最近の合格率：

年度	安全コンサル			衛生コンサル		
	受験者	合格者	%	受験者	合格者	%
H 8	1,257	286	22.8	368	108	29.3
H 9	1,050	303	28.9	554	158	28.5
H10	1,048	353	33.7	545	187	34.3

(社)日本技術士会には労働安全・労働衛生プロジェクトチームがあり188名(内、19名が安全・衛生両コンサル資格所有者)の方が所属しています。

文責：田中(経営工学) 092-523-2624

会員ニュース

☆(社)日本技術士会(九州支部)入会

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(上段：連絡先/下段：勤務先) (連絡先と勤務先が同じ場合、連絡先のみ)	☎	FAX
大分	正会員	室越 章	水産	〒870-0874 大分市にじが丘2-16-1 勤：ヤンマーディーゼル(株)船舶システム事業部	☎(0978)68-0766	☎(097)545-4584 FAX(0978)68-1164
福岡	正会員	石井 輝久	電気電子	〒814-0022 福岡市早良区原1-12-20-301 勤：福岡空港エンジニアリング(株)技術部	☎(092)629-8230	☎(092)843-5572 FAX(092)629-8232
福岡	正会員	尾中 健一	機械	〒818-0044 筑紫野市大字萩原443 勤：東邦地下工機(株)製造部技術課	☎(092)581-3031	☎(092)922-4989 FAX(092)501-4379
宮崎	正会員	柳田 正三	農業	〒880-0945 宮崎市福島町寺山3072-2 勤：宮崎県土地改良事業団体連合会	☎(0985)24-3022	☎(0985)51-0961 FAX(0985)29-9107
長崎	正会員	若杉 泰昭	建設	〒854-0002 諫早市日の出町35-39 勤：(株)大島造船所鉄鋼営業部	☎(095)820-9022	☎(0957)21-2772 FAX(095)828-3166
福岡	正会員	佐藤 修治	機械	〒815-0073 福岡市南区大池1-1-43 勤：九州地方建設局道路部機械課	☎(092)471-6331	☎(092)511-2577 FAX(092)476-3483
宮崎	正会員	川窪 一郎	環境	〒880-2153 宮崎市学園木花台南3-35-4 勤：(株)共同技術コンサルタント	☎(0985)29-0240	☎(0985)58-2914 FAX(0985)24-8584
福岡	正会員	堀江 研二	環境	〒814-0103 福岡市城南区鳥飼7-24-14コーポパークサイド鳥飼203号 勤：パシフィックコンサルタンツ(株)九州支社	☎(092)885-5009	☎(092)841-2627 FAX(092)885-5006
福岡	正会員	加治木博明	水道	〒819-0041 福岡市西区西の丘3-24-13 勤：パシフィックコンサルタンツ(株)九州支社	☎(092)885-5013	☎(092)891-6452 FAX(092)885-5003
福岡	正会員	田所 紀文	建設	〒810-0033 福岡市中央区小笹4-4-10-602 勤：パシフィックコンサルタンツ(株)九州支社	☎(092)885-5015	☎(092)533-2684 FAX(092)885-5003
福岡	正会員	吉谷 勝裕	建設	〒813-0016 福岡市東区香椎浜1-7-1-402 勤：パシフィックコンサルタンツ(株)九州支社	☎(092)885-5014	FAX(092)885-5006
長崎	正会員	池松 正弘	農業	〒852-5174 長崎市辻町15 勤：日本基礎技術(株)九州支店	☎(095)826-1007	☎(095)845-1373 FAX(095)826-1031
福岡	正会員	八尋 裕	建設	〒815-0073 福岡市南区大池1-1-5 勤：九州地方建設局河川部	☎(092)471-6331	☎(092)561-2784 FAX(092)476-3470
長崎	正会員	林 興一郎	電気電子	〒854-0075 諫早市馬渡町5-113 勤：長菱制御システム(株)システム技術部	☎(095)828-7724	☎(0957)26-5146 FAX(095)828-7714
佐賀	正会員	大宅公一郎	農業	〒849-0937 佐賀市鍋島2-2-19 勤：佐賀県武雄農林事務所	☎(0954)23-5116	☎(0952)30-6515 FAX(0954)22-4584
鹿児島	正会員	稲田 博	建設	〒899-5431 鹿児島県始良郡始良町西餅田3141-16 勤：小牧建設(株)	☎(099)225-2611	☎(0995)65-4568 FAX(099)225-0079
福岡	正会員	深山 正光	環境	〒830-0027 久留米市長門石4-9-32 勤：(財)九州産業衛生協会	☎(0942)44-5000	☎(0942)38-1838 FAX(0942)44-5516
福岡	正会員	小嶺 啓蔵	建設	〒819-0044 福岡市西区生松台1-18-11 勤：オリエンタル建設(株)福岡支店	☎(092)761-6934	☎(092)811-2576 FAX(092)741-3499
鹿児島	正会員	中山 義雄	応用理学	〒891-0141 鹿児島市谷山1丁目4988 勤：ユニオン技術(株)	☎(099)268-0956	☎(099)269-2081 FAX(099)267-5871
鹿児島	正会員	竹元 幹生	応用理学	〒892-0872 鹿児島市大明丘2-12-11 勤：南九地質(株)	☎(099)285-0915	☎(099)244-4962 FAX(099)285-0916
福岡	準会員	久保田史朗	応用理学	〒816-0924 大野城市栄町2-5-8アネモス春日原604号 勤：(株)アイ・エヌ・エー九州支店		☎(070)5290-5048 ☎(092)595-2555
鹿児島	準会員	新屋 保	建設	〒895-0031 川内市勝目町5315-30県営勝目団地4-201 勤：新和技術コンサルタント(株)		☎(0996)25-1394 ☎(0996)25-3155

☆九州技術士センター 入会

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(上段：連絡先/下段：勤務先) (連絡先と勤務先が同じ場合、連絡先のみ)	☎	FAX
福岡	正会員	井芹 寧	水道	〒818-0118 太宰府市石坂2丁目18-10 勤：西日本技術開発株式会社	☎(092)781-2625	FAX(092)781-4880

福岡	正会員	廣崎 豊伸	電気電子	〒819-0013 福岡市西区愛宕浜4-4-9 勤：九州電力(株)	☎(092)883-6329
熊本	正会員	堀田 信俊	建設	〒860-0862 熊本市黒髪5丁目33-30	☎(096)345-8283
宮崎	正会員	渡邊 祥造	機械	〒880-1114 宮崎県東諸県郡国富町大字三名4456-18 勤：富士通システムコンストラクション ☎(0985)38-9143	☎(0985)75-1041 FAX(0985)27-4548
北九州	正会員	益田 栄成	建設	〒800-0222 北九州市小倉南区中曽根5-7-23 勤：(財)北九州市都市整備公社響灘緑地管理事務所	☎(093)471-2682 ☎(093)741-5545
北九州	正会員	沼田 晋一	建設	〒802-0812 北九州市小倉南区若園1-23-28 勤：西日本工業大学	☎(093)951-7941 ☎(0930)23-1491
宮崎	準会員	山下 良久	建設	〒883-0015 日向市永江町3-104 勤：東京理科大学大学院在学	☎(0982)52-7910
福岡	準会員	三笠 眞吾	建設	〒816-0924 大野城市栄町3-3-46 筑紫寮 勤：西日本技術開発(株) ☎(092)781-1177	☎(092)581-9491 FAX(092)781-9599
福岡	準会員	橋本 和繁	建設	〒816-0922 大野城市山田2-1-40グレイス手嶋102号 勤：西日本技術開発(株)	☎(092)586-2984 ☎(092)781-0259
福岡	準会員	澤田 尚	建設	〒813-0041 福岡市東区水谷2-18-8サンヒルズ香椎305 勤：西日本技術開発(株)	☎(092)662-5814 ☎(092)781-0258

☆会員連絡先（住所）および勤務先変更

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(変更)	
福岡	正会員	岩橋 正昭	機械	勤：〒814-0716 福岡市早良区四箇田団地5-605 岩橋技術士事務所	☎(092)812-1663
福岡	正会員	中村 一	電気電子	勤：〒810-0041 福岡市中央区大名2-5-31 福岡市交通局運輸部運輸課	☎(092)732-4131
福岡	正会員	根岸 圭介	電気電子	勤：〒810-0041 福岡市中央区大名2-5-31 福岡市交通局施設部電気課	☎(092)732-4146 FAX(092)732-4199
福岡	正会員	宮崎 昌博	電気電子	勤：〒812-0017 福岡市博多区美野島4-2-3 保全工業(株)	☎(092)411-2931 FAX(092)411-2932
福岡	正会員	井浦 敏彦	建設	勤：〒810-0064 福岡市中央区地行2-1-4 県北コンサルタント(株)	☎(092)732-6695
福岡	正会員	岩松 正憲	建設	勤：〒883-0005 日向市中堀町3丁目119番地 (株)ケイディエム	☎(0982)52-0696 FAX(0982)52-0812
福岡	正会員	太田 達雄	建設	連：〒811-0212 福岡市東区美和台1-14-7	☎(092)606-9333
福岡	正会員	岡部 礼一	建設	勤：〒816-0088 福岡市博多区板付2-5-4 (株)サンコンサル	☎(092)582-1290 FAX(092)573-6247
福岡	正会員	鬼塚 二男	建設	勤：〒870-0045 大分市城崎町2-4-13 (株)富士設計	☎(097)536-1479 FAX(097)536-1830
福岡	正会員	小林 正毅	建設	連：〒812-0022 福岡市博多区神屋町5-23	☎(092)263-7119
福岡	正会員	境 睦人	建設	勤：〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-13-9 (株)博多土木コンサルタント	☎(092)411-8191 FAX(092)411-8186
福岡	正会員	酒井 良	建設	連：〒811-2100 粕屋郡宇美町桜原1-31-21	☎(092)933-4054
福岡	正会員	田中 正明	建設	勤：〒880-0032 宮崎市霧島2丁目162-2 (株)ロードリバーコンサルタント	☎(0985)23-2957 FAX(0985)25-5662
福岡	正会員	田原 正清	建設	勤：〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2-19-17-212 アイドルエンジニアリング(株)	☎(092)474-3355
福岡	正会員	寺地 守	建設	連：〒815-0033 福岡市南区大橋3-31-22-602	☎(092)542-6716
福岡	正会員	橋本美喜男	建設	連：〒815-0074 福岡市南区寺塚2-20-20ハイホルム寺塚542	☎(092)562-4821
福岡	正会員	藤本 順一	建設	連：〒816-0088 福岡市博多区板付5-5-9	☎(092)591-7229
福岡	正会員	松崎 明	建設	勤：〒814-0131 福岡市城南区松山2-27-3 パシフィックコンサルタンツ(株)九州本社宮崎技術部	☎(0985)30-5360 FAX(0985)30-5361
福岡	正会員	元永 優一	建設	勤：〒819-0004 福岡市西区姪浜町219-1 (株)ワコーコンサルタンツ	☎(092)882-3188 FAX(092)882-3199
福岡	正会員	田中 衛	衛生工学	勤：〒814-0103 福岡市城南区鳥飼5-2-25 福岡市南保健所衛生課	☎(092)831-4261 FAX(092)822-5844
福岡	正会員	安武 敏也	衛生工学	勤：〒804-0003 北九州市戸畑区中原新町2-4 環境テクノス(株)	☎(093)883-1500 FAX(093)883-0701

御協力いただいている 賛助会員

〔福岡〕

(株)久栄総合コンサルタント
 日本航測(株)
 (株)建設環境研究所
 (株)唯設計事務所
 日本建設コンサルタント(株)九州支店
 中央開発(株)九州事業部
 (株)ダイヤコンサルタント西日本支社
 福岡支店
 日本工営(株)福岡支店
 昭和地下工業(株)
 第一復建(株)
 (株)松本組
 (株)エスケイエンジニアリング
 (株)東亜コンサルタント
 (株)福山コンサルタント
 (株)東京建設コンサルタント九州支店
 東亜建設技術(株)
 精巧測量(株)福岡支店
 東邦地下工機(株)
 大成ジオテック(株)
 末永コンサルタント(株)
 富洋設計(株)九州支店
 九州建設コンサルタント(株)福岡支店
 応用地質(株)九州支店
 日本海洋コンサルタント(株)
 九州事務所
 (株)サンコンサル
 芳野測量設計(株)
 (株)橋梁コンサルタント福岡支社
 (株)アイ・エヌ・エー九州支店
 (株)九州地質コンサルタント
 (株)タイヨー設計
 三井共同建設コンサルタント(株)
 九州支社
 日鉄鉱山コンサルタント(株)九州支店
 (株)大建
 (株)エム・ケー・コンサルタント
 (株)エス・ピー・エンジニアリング
 (株)アジア建設コンサルタント
 新地研工業(株)
 (株)カミナガ
 (株)構造技術センター
 平和測量設計(株)
 基礎地盤コンサルタンツ(株)九州支社
 (株)高崎総合コンサルタント
 西日本コントラクト(株)

(株)マエダ九州支社
 西鉄シーイーコンサルタント(株)
 町田電気管理・技術士事務所
 日本地研(株)
 第一設計(株)
 九州環境技術研究所
 西日本技術開発(株)
 (株)富士ピーエス
 日本技術開発(株)

〔北九州〕

(株)吾水総合コンサルタント
 九和設計(株)
 (株)都市開発コンサルタント
 九州テクノリサーチ(株)
 第一復建(株)北九州事務所
 (株)松尾設計
 (株)酒見設計
 (株)太平設計
 冷牟田設計コンサルタント(株)
 山九(株)鉄鋼事業本部鉄鋼技術部
 (株)日鉄エレックス
 (株)安川電機

〔佐賀〕

(株)精工コンサルタント
 新九州測量設計(株)
 日本建設技術(株)
 (株)九州構造設計
 西日本総合コンサルタント(株)
 新栄地研(株)
 フジコンサルタント(株)
 九州技術開発(株)

〔長崎〕

大栄開発(株)
 (株)実光測量設計
 西日本菱重興産(株)
 大洋技研(株)
 (株)親和テクノ
 扇精光(株)
 西海地研(株)
 (有)メジャーコンサルタント

〔熊本〕

(株)九州開発エンジニアリング
 佐伯調査測量設計(株)
 松本技術コンサルタント(株)
 協同エンジニアリング(株)

(株)日建コンサルタント
 東亜コンサルタント(株)
 (株)テクノコンサルタント
 南海測量設計(株)
 九州特殊土木(株)
 大洋測量設計(株)
 九州建設コンサルタント(株)
 西日本コンサルタント(株)
 南武測量設計(株)
 東洋測量設計(株)
 九建設計(株)
 日進コンサルタント(株)

〔宮崎〕

(株)弓場水工コンサルタント
 (株)ケイディエム
 (株)国土地質調査事務所
 南日本総合コンサルタント(株)
 (株)宮崎産業開発
 (株)西田技術開発コンサルタント
 (株)共和コンサルタンツ
 (有)福島測量設計調査事務所
 九州工営(株)
 (有)久保測量設計コンサルタント
 正栄技術コンサルタント(株)
 (株)東九州コンサルタント
 (有)日豊測量設計事務所
 日測コンサルタント(株)
 (株)水理設計
 (株)ダイワコンサルタント
 (株)杉田測量設計コンサルタント
 (株)ジオセンター M
 (株)都南開発コンサルタント
 (株)アップス
 (有)カツキ技術士事務所
 (株)共同技術コンサルタント
 朝日開発コンサルタンツ(株)
 小枚建設(株)
 (株)久永コンサルタント
 コーアツ工業(株)
 大協(株)
 新和技術コンサルタント(株)
 (株)中村測量設計
 (株)日峰測地
 (株)大紀造園設計事務所
 (株)建設技術コンサルタンツ

ホームページをもっと 利用していただくために

九州支部のホームページに月平均1,000件程度のアクセスがあります。編集に関係する私達も大いに勇気づけられ、本部や支部のホットニュースをいち早く皆様に伝えるため、毎月更新しています。

九州支部のホームページのURLは、
<http://www.joho-fukuoka.or.jp/kigyo/engineer>
それにしても、ずいぶん長ったらしい名前です。一度で間違いなく覚えるのは大変です。ウインドウズ95または98を使用されている方は、必ず「お気に

入り」に登録しておいて下さい。

上記URLを忘れた方は検索「エンジン」でも呼び出せます。「ヤフー Yahoo! JAPAN」か、「グー goo」

ヤフー <http://www.yahoo.co.jp>

グー <http://www.goo.ne.jp> を使って、

日本技術士会九州支部 と入力、検索して下さい。
(1字スペース)

どちらも九州支部関連の記事が10ばかり出てきますので、第一番目の記事をクリックして下さい。2番目以降は一番目の記事の内容の抄録その他です。

検索エンジンは「ヤフー」・「グー」以外にも沢山ありますが、この2つ以外は駄目のようです。

会誌“技術士”最近の主要目次

平成11年6月号

- ・巻頭言 国際的に通用する大学へ／西脇信彦
- ・美味しい味と行動／平井輝生
- ・個室式夜行寝台バスの提案／福谷光雄
- ・技術者の夢-将来の無害発電／山本紀夫
- ・技術者教育プログラムの認定と技術者資格／細野真一
- ・プロジェクターで楽々プレゼンテーション／中井孝雄
- ・(社)日本技術士会ウェブページ掲載のための「ガイドライン」

平成11年7月号

- ・巻頭言 4年経過の大震災被災地から／溜水義久
- ・ミニ特集 [農業・農村と環境]
灌漑排水と環境／武田健策
施設園芸における環境制御／板木利隆
農業廃棄物の再生利用技術／石井憲郎
食品工業における廃棄物の処理／山内貞次
難確認情報から遡る持続的農業支援技術について
／井上祥一郎
- ・環境にやさしい食品の開発／酒井重男

平成11年8月号

- ・巻頭言 「現状認識」の違いから／小林登史夫
- ・タイ未利用農林植物研究計画／小林良生
- ・技術士制度の見直し・改善の動き／堀内純夫
- ・ラン藻でエチレンをつくる／坂井美穂
- ・ヒトゲノムに関する国際学会報告／石井一夫

- ・技術士業務、SOHOの勧め／小林昇
- ・貴方も海外協力事業に一員として参加しませんか
／長友正治

編集後記

今年の秋は9月27日から「中国三峡ダムの現地研修見学会」10月28日から韓国釜山で「日韓技術士会議」加えて、来年の秋にはこの「日韓技術士会議」を九州支部が開催を担当するというので、その準備の「開催地区実行小委員会」が支部に結成されたなどなど、九州の技術士活動が一躍、国際化しつつあるようです。それに、日本技術士会全体としてはAPEC技術者資格相互承認プロジェクトへの対応という、大きな国際化の問題を抱えています。

21世紀が目の前に来たいま、“技術士”は、世界に通用する広い視野をもち、自分の技術を部門際、国際のなかで存分に活かして行きたいものです。今年の秋はその幕開けではないでしょうか。(完戸)

発行：(社)日本技術士会九州支部
九州技術士センター

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7-1
(シック博多駅前ビル204)

九州支部： ☎(092)432-4441

FAX(092)432-4442

E-mail: engineer@joho-fukuoka.or.jp

九州支部ホームページURL:

<http://www.joho-fukuoka.or.jp/kigyo/engineer>

センター： ☎/FAX(092)432-4443

印刷：(株)川島弘文社